

V 2019年度の主要な事業動向

1 2019年度のトピック

① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（2020年3月から5月）

臨時休館の経過 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、他の県施設の休館と歩調を合わせて、3月2日（月）から3月9日（月）までの整理休館に引き続き、まず3月10日（火）から16日（月）まで臨時休館することとし、その後も引き続き感染拡大防止のため3月17日（火）から31日（火）まで、4月1日（水）から13日（月）まで、4月14日（火）から5月11日（月）まで、そして5月12日（火）から6月1日（月）まで、と臨時休館の期間を4回延長した。3月2日から6月1日まで3か月の長期間にわたる休館は、開館以来、初めてのことである。

2019年2月以降、入館者数は復調傾向にあり、2019年度は久しぶりに前年度を上回ることを期待されていたが、3月のほとんどが臨時休館となった結果、50万4,796人に止まった。

特設窓口の開設と予約資料の貸出サービス 臨時休館中の3月17日（火）から、利用者の便宜を図るため、図書館入口に特設窓口を開設し予約資料に限定して貸出を実施するとともに、4月1日（水）から利用カードの発行と更新もあわせて実施するようにした。3月17日（火）から3月31日（火）の臨時休館中に、予約資料の貸出のため、特設窓口を訪れた利用者は合計3,090人、予約資料の貸出数は3,598冊・点であった。

4月1日（水）以降、臨時休館中であっても、県民の方の日常生活の維持に必要な事業活動であるとして、特設窓口での予約資料の貸出等限定したサービスを継続した。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大が依然続いたことから、特設窓口でのサービスは4月19日（日）をもって終了した（予約の受付は4月17日（金））。この間本県は、10日（金）に「新型コロナウイルス感染症 愛知県緊急事態宣言」を発出し、16日（木）には、本県全域を対象に4月17日（金）から5月6日（水）までの休業協力要請（愛知県緊急事態措置）を発表した。同日、国においても新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象地域を全国に拡大するとともに、本県始め13都道府県を、特に重点的に感染症拡大防止の取組みを進めていく必要があるとして、特定警戒都道府県とした。

4月1日（水）から19日（日）の臨時休館中に、予約資料の貸出のため、特設窓口を訪れた利用者は合計5,312人、予約資料の貸出数は7,270冊・点であった。4月1日（水）から8日（水）の間、予約の受付数と特設窓口を訪れた利用者数とは、一日あたりそれぞれ200冊・点台から300冊・点台前半、200人台で推移していたが、10日（金）名古屋市図書館が、本県の緊急事態宣言発出を受け、同日午後8時で予約の受付を停止するとともに、予約資料の引き渡しを4月12日（日）で終了することとしたため、同日以降当館の予約と特設窓口を訪れる利用者は急増した。予約の受付最終日4月17日（金）の受付数は870冊・点、予約資料の貸出最終日である4月19日（日）に特設窓口を訪れた利用者数は370人であった。

特設窓口と予約資料の貸出サービスの再開 5月4日（月）、国において緊急事態宣言の枠組みを5月31日（日）まで延長することが決定され、本県においても、緊急事態宣言及び緊急事態措置の期間を5月31日（日）まで延長した。引き続き不要不急の外出の自粛、イベント等の開催制限、施設の使用制限等が求められたが、社会経済や住民の生活・健康等への影響にも留意することとさ



6/1までの臨時休館を伝える掲示



図書館入口に開設した特設窓口

れ、図書館、博物館等の施設については、適切な感染症防止対策を講じることを前提に開放することが考えられるとされた。5月14日（木）には、本県始め39県を対象に、国の緊急事態措置が解除され、本県においても緊急事態措置を改訂し（5月15日）、図書館については、休業協力要請を緩和するが、再開する場合には徹底した感染症拡大防止の対策の実施の協力を要請する施設に位置付けられた。その後、5月21日（木）及び25日（月）には、国の緊急事態宣言の対象として残っていた東京都始め8都道府県についても緊急事態宣言が解除された。本県においても、5月26日（火）、愛知県緊急事態宣言及び緊急事態措置を解除し、感染の拡大予防に留意しながら、日常の活動に復する取組みが開始された。

当館では、手指消毒液の準備、設備や什器等の消毒など感染防止対策に留意した上で、5月19日（火）には特設窓口での予約資料の貸出サービスを、5月21日（木）からは予約の受付と利用カードの発行事務を再開した。5月19日（火）から31日（日）まで貸出のために特設窓口を訪れた利用者は3,057人、5月21日（木）から31日（日）までの予約の受付数は4,599冊・点であった。

レファレンスと郵送複写 開館日（3月1日）を含む3月中のレファレンスの受付件数は893件、郵送複写の処理件数は7件であった。臨時休館が長期化する中で郵送複写の申込みも増加するとともに、複写箇所の特等郵送複写申込みに関するレファレンスも増加した。4月のレファレンス受付と郵送複写の処理件数とは、それぞれ998件、30件、5月のレファレンス受付と郵送複写の処理件数は、それぞれ654件、16件であった。

関連情報の提供等 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当館始め県内各公共図書館においては、臨時休館や限定したサービスを実施することとなったが、そうした情報を取りまとめ、「愛知県内公共図書館の休館状況について」として当館のホームページに掲出した。また、本県のホームページ内に設けられた新型コロナウイルス感染症に関する特設サイト「愛知県新型コロナウイルス感染症対策サイト」へ当館のホームページから閲覧できるようリンクを張った。

3月の整理休館明けから予定していた、当館職員と来館者のおすすめの本の紹介文を掲示する企画展示「読書の木をそだてよう！」について、臨時休館のため観覧に供することができなくなったので、当館職員のおすすめ本の分をTwitter、Facebookで発信すると同時に、「読書の木をそだてよう！」を紹介する動画を作成しYouTubeで公開した。



企画展示「読書の木をそだてよう！」

② 図書館システムの更新

2020年1月に第五期図書館システムへの更新を行い、図書館システムパッケージのバージョンアップやパソコンなどのクライアント端末機器の入れ替えを行った。

この図書館システムは、クライアント端末機器とサーバからなるハードウェア及び図書館パッケージ等のソフトウェアで構成され、図書館業務を円滑に遂行し、インターネットによる蔵書検索や図書の予約・貸出期間延長、県内公共図書館横断検索といったWebサービスを通じ県民の利便を図るうえで必要不可欠な機能を担っている。

今回の更新では、スマートフォン専用ページの提供によるスマートフォンからの蔵書検索やMyライブラリの利便性向上等のサービス、データベースの二重化等セキュリティ上の改善を行った。

2 図書等の収集

① 図書

2019年度は、13,013冊の図書を受け入れた（購入：和書7,542冊、洋書52冊、計7,594冊。寄贈：和書4,971冊、洋書427冊、計5,398冊。県産業労働センターからの管理替え：21冊）。購入に

よる受入冊数は、2009年度の21,180冊をピークとして、図書購入費の減少に伴い漸減しており、2019年度は7,594冊(ピーク時の36%)だった。厳しい予算状況の中、拠点図書館として県内市町村図書館のニーズに応えられるように、併せて県図書館として魅力となる特徴的なコレクションを構築するために、「資料収集方針」及び「資料選択基準」に基づき、「ものづくり文化」、「地域」及び「健康・医療」の分野を中心に慎重な選書を行い収集した。

2019年度末現在での図書蔵書冊数は1,167,819冊である(2018年度末:1,155,012冊+受入:13,013冊-除籍:206冊)。

② 新聞・雑誌、規格及び加除法規類

新聞・雑誌 2019年度当初の継続受入資料は、新聞94紙、雑誌1,939タイトルで、うち新聞33紙、雑誌1,195タイトルは寄贈によるものである。『日刊工業新聞』については電子版(CD-ROM、2003.4~)も所蔵している(他に『名古屋タイムズ』も電子版(1946.5~2008.10)を所蔵)。2019年度末には新聞6紙、雑誌44タイトルについて翌年度への継続を中止した。

規格 2019年度も内容の更新を継続した規格は、『日本産業規格』(Japanese Industrial Standards: J I S) 1タイトルである。

加除法規類 2019年度当初、内容の更新を継続した加除法規類は『現行法規総覧』、『愛知県法規集』、『名古屋港管理組合例規集』、『愛知県職員任用給与等関係例規集』、『集録建築法規 愛知県』及び『愛知県環境関係法規集』の6タイトルであったが、2019年度末に『愛知県職員任用給与等関係例規集』以下3タイトルの加除法規類の更新を中止した。

③ 視聴覚(Audio Visual: AV)資料

教養や文化面で資料価値の高い資料を中心に収集しており、2019年度はDVD117点、CD109点を受け入れた。購入・寄贈の別では、購入149点、寄贈は文化財の記録映像など77点である。前年度に引き続き、劣化の進むビデオカセットやカセットテープ、旧蔵レーザーディスクの代替資料の購入を進めた。2019年度末現在での所蔵総数はDVD始め映像資料6,119点、CD始め録音資料17,968点である。

④ 視覚障害者用資料

2019年度に視覚障害者用に製作した録音図書デイジー(Digital Accessible Information System: DAISY アクセシブルな情報システム)の数は21タイトルで、購入9タイトル、寄贈15タイトルを含め45タイトル増加し、2019年度末現在のデイジーの所蔵総タイトル数は1,008タイトルとなった。この他2019年度に、点字図書5タイトル、録音図書(カセット)1タイトル、マルチメディアデイジー10タイトルが増加した。

⑤ その他の資料

ア マイクロ資料(マイクロフィルム、マイクロフィッシュ)

2018年刊行分の『毎日新聞』中部本社版及び『中日スポーツ』について、マイクロフィルム計36リールを受け入れた。

イ 電子資料(CD-ROM等)

2019年度には受け入れがなかった。2019年度末現在、『愛知県議会会議録 明治26年』(DVD-ROM)始め1,325タイトル1,411枚を所蔵している(なお、「電子資料」には、図書等の付録であるものは含んでいない)。

ウ 商用データベース

レファレンス等の業務及び利用者の閲覧用に、次の7種の商用データベースを導入し、情報提供の高度化、迅速化を図っている。



マイクロ資料閲覧用端末

名称	内容
「日経テレコン 21(図書館パック)」	日経4紙(『日本経済新聞』朝・夕刊、『日経産業新聞』、『日経流通新聞』、『日経金融新聞』)の記事検索の他、企業情報や人事情報が検索可能 *収録範囲:1975年～(一部記事は、見出しのみ)
朝日新聞オンライン記事データベース「聞蔵(きくぞう)Ⅱ ビジュアル for Libraries」	1879年～1999年に『朝日新聞』に掲載された新聞記事の紙面イメージ検索と、1985年以降の『朝日新聞』記事全文検索が可能
オンライン情報検索サービス「中日新聞・東京新聞記事データベース」	『中日新聞』朝・夕刊(1987年4月～)、『東京新聞』朝・夕刊(1997年4月～)それぞれの最終版の主要記事を蓄積。中部地方各県版、愛知県、三重県、岐阜県下の全地方版(1996年1月～)をカバー
オンライン新聞記事データベースサービス「毎索」(毎日新聞社)	1872年創刊号から現在までの『毎日新聞』に掲載された新聞記事を日付やキーワードで検索可能。また、創刊号から1999年までの紙面も収録
「TKCローライブラリー」	判例、法令が検索可。1875年の大審院判例から今日までに公表された判例、約28万件を、フルテキストで収録。また、「現行日本法規」に基づいた法令も収録
「官報情報検索サービス」(官報インターネット版)	官報(本紙、号外、政府調達公告版、資料版、目録)の日付・記事検索が可能。本文も収録 *収録範囲:1947年5月3日～当日分まで
「J Dream Ⅲ」	国内外の科学技術や医学・薬学関係の文献情報が日本語で検索可能 *収録文献:約7,000万件。医学・薬学を含む、科学技術系のジャーナルを始め、学会誌、会議録、公共資料、技報、協会誌等を収録

「聞蔵(きくぞう)Ⅱ ビジュアル for Libraries」、「中日新聞・東京新聞記事データベース」、「毎索」及び「官報情報検索サービス」は2階の、「日経テレコン 21」、「TKCローライブラリー」及び「J Dream Ⅲ」は4階の専用端末で利用に供している。

エ その他(紙芝居、電話帳、地図(一枚もの))

紙芝居は2019年度新規の受入れは35点で総数は3,422点。全国の電話帳は2019年度新規に1,305冊を受け入れた。国土地理院発行の地形図や都市地図など一枚ものの地図は、2019年度新規に378点を受け入れた。

3 来館者へのサービスの状況

① 入館者、個人貸出

2019年度の入館者数は504,796人(前年度比95.3%)、1日平均の入館者数は1,912人(前年度比101.4%)である。2019年度末現在の有効登録者数は39,848人(2019年度新規登録者12,342人)で、郵便による利用カード発行には57人(前年度65人)の申込みがあった。

図書等の個人貸出点数は、414,919冊・点(前年度比91.6%)、1日平均は1,571.7冊・点(前年度比97.5%)であり、資料への予約数は37,575冊・点(前年度比111.5%)で、このうち利用者自身によるオンライン予約は32,095冊・点(前年度比118.9%)であった。

② 児童図書室のサービス

2019年度末現在、開架に図書33,901冊、閉架も含めると86,841冊、雑誌(児童向け以外含む)は全て開架で32タイトルを所蔵している。児童図書の貸出冊数は、79,113冊(前年度比97.2%)。

刊行物では、新着図書を紹介する『新しく入った本』(月刊)とおすすめ本を紹介する『じどうと

しよしつだより えほん』(季刊)、『児童図書室だより ものがたり・ちしきの本』(季刊)、読み聞かせに適した本を紹介する『おはなし会でよんだ本!』(季刊)を発行した。

テーマ展示では、「宇宙の本」の他、「2018年をふりかえって～昨年出版されたおすすめのごどもの本～」「のりものの本」「クリスマスの本」「干支・子(ねずみ)の本」など2か月ごとにテーマを変えて関連図書の展示と貸出を行った。

「おはなし会」については、幼児向け、小学生向けを年間21日42回(参加者577人)、あかちゃん向けを、年間21日21回行った(参加者375人)。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催予定のおはなし会は中止した。

4月23日の子ども読書の日の記念行事としては、4月20日に子ども読書の日記念おはなし会として、読み聞かせと折り紙を行った。夏休み中の8月には、簡単な実験や工作などを行う「おたのしみ会」(参加者58人)を行った。



幼児向けおはなし会(11/16)

③ 視覚障害者資料室のサービス

視覚障害者への対面朗読は、利用者数が延べ168人(前年度比127.3%)、対応した朗読者数が延べ128人(同132.0%)、朗読時間数が310.17時間(同143.3%)であった。

視覚障害者資料の貸出数は、自館資料の貸出が、個人537タイトル(同87.6%)で、他施設から借り入れた資料の提供数は3,757タイトル(同104.7%)であった。自館資料の他施設への貸出は、400タイトル(同75.9%)であった。

自館資料の貸出数が前年度に比べて減少したのは、2018年8月に国立国会図書館のデータ送信事業に参加してコンテンツデータをインターネット上にアップロードし、ダウンロード利用ができるようになったことが理由として考えられる。2020年3月までにアップロードした資料は601点で、2019年4月から2020年3月のダウンロード数は、9,859件であった(2020年4月国立国会図書館からの報告による)。

当館が加入している視覚障害者等への情報提供ネットワークシステム「サピエ」は、点字・録音図書の施設間相互貸借のための書誌データベースのほか、電子図書館の機能もあることから、利用者個人の「サピエ」への直接利用もサポートしている。国立国会図書館とサピエとは連携しており、当館が国立国会図書館へアップしたデータも、サピエからダウンロードすることができる。2019年度は新たに当館を経由して9人が登録し、総数は66人となった。

心身障害者へのサービスとして実施している郵送貸出の数は、707点(同121.9%)であった。

④ AV室のサービス

視聴覚資料(CD、DVDなど)の貸出は65,037点(前年度比88.6%)。2019年度に限り、平日午後6時以降のAVカウンターは無人とし、貸出等の業務は1階中央カウンターで行った。

AV室展示として、「旅するメディア」「タンゴ展」「ジャズをめぐる冒険」「メディアの中の戦争」など2か月ごとにテーマを決めてAV資料(図書も含む)の展示を行った。所蔵資料を上映する名画鑑賞会を年間31回実施し、参観者は延べ1,777人(前年度比112.5%)。2019年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月21日以降予定の5回の開催を中止した。

⑤ 各コーナーの状況

図書館資料について、人文科学、社会科学及び自然科学の主題別、また新聞・雑誌、AV資料等のメディア別に各フロアで閲覧・利用に供する他、県立図書館としての役割や県行政を推進する観点から、次のテーマについて集約したコーナーを設置している。

ア 地域資料

愛知県の人・事物について書かれた資料、県内行政機関の刊行物、その他本県に関する資料を

収集している。2019年度末現在、開架に図書40,734冊、受入継続雑誌342タイトル、閉架も含めると図書82,347冊（前年度比1,683冊増）、雑誌1,345タイトル（前年度比2タイトル増）を所蔵している。

また、地域資料について来館者の方に知っていただくため、地域資料の展示をコーナーで実施している。2019年度には「あいちの街道と宿場」、「あいちの風水害史」、「新収蔵資料展—明治初期の尾張・三河地域の資料」という内容での展示を行った。

イ ビジネス情報コーナー

企業経営、起業、資格取得、就職関係の資料を集約したビジネス情報コーナーを2005年3月に開設、2016年度に社史コーナーを開設した。2019年度末現在、図書約5,700冊と受入継続雑誌36タイトルを開架している。

なお、2019年度は企画展示「事業承継・起業を応援します」を開催し、関連事業として日本政策金融公庫他と共催で「落語で学ぶ事業承継セミナー」を開催した（参加者77人）。

ウ ティーンズコーナー



第8回てこぼん大賞

中学生・高校生に読書により親しんでもらうため、ティーンズコーナー（2005年3月開設）には、2019年度末現在約7,500冊を配置している。そのうち約20%が常に貸出されており、多くの利用が続いている。

また、利用者参加型企画「てこぼん」（ティーンズコーナーポイントGet大作戦!）を継続して開催し、利用者が書いたPOP（お気に入りの本を文章やイラストなどを使って紹介したもの）を活用して他の利用者にPRすることにより、さらなる利用促進を図っている。また、7月から9月にかけて、来館者の投票に

よりPOPの優秀作を選ぶ「第8回てこぼん大賞」を実施した。

エ 多文化サービスコーナー

多文化共生社会への意識づくりと在住外国人への日本語教育等を支援するため、2006年3月に中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語で書かれた図書や日本語学習用の図書を備えた多文化サービスコーナーを開設した。2019年度には、中国語、ハングル、ポルトガル語、スペイン語等の絵本516冊を集め「絵本コーナー」を開設した。

2019年度末現在、約5,400冊を開架しており、文学や日本語学習用の図書を中心として安定した利用が続いている。

オ 東三河コーナー

本県の東三河振興の一環として2018年3月に開設。県東三河総局、東三河8市町村の観光関係当局、東三河広域連合及び当該地域の観光協会等と連携し、東三河の観光情報を中心に最新パンフレットや地域情報誌（タウン誌）、イベントのチラシなど旬の情報を提供している。

また、2019年度には企画展示「第7回穂っとネット東三河フォトコンテスト優秀作品展」、豊根村茶臼山高原の美術館所蔵の前田真三氏の写真展「ふるさと奥三河」等を実施した。

カ 観光情報コーナー

県観光振興課、東三河8市町村を除く46市町村の観光関係当局及び地域の観光協会等と連携し、東三河を除いた愛知県全市町村の観光情報等提供することを目的として、2018年11月に開設した。主に観光パンフレットや地域情報誌（タウン誌）、イベントのチラシなどを提供している。

⑥ 情報提供サービス

ア レファレンス

レファレンス件数は 33,590 件（前年度比 92.8%）であった。内訳はカウンター等でのレファレンスが 25,187 件、電話が 8,204 件、文書（メール、ファックスによるものを含む）によるものが 199 件であった。

国立国会図書館が提供する「レファレンス協同データベース事業」にも 2004 年から参加しており、2019 年度末現在、381 件のレファレンス事例を公開・登録している。

イ 愛知県図書館調べ方ガイド

資料や情報の探し方について、テーマごとに案内する「調べ方ガイド」（A4判、両面）を発行し、館内で配布するとともに、当館のホームページでも公開している。2019 年度中には「J I S について」、「相続・遺言」等 8 点の内容を改訂した。2019 年度末現在 22 点の調べ方ガイドを公開している。

ウ インターネット情報の提供等

2019 年度の館内でのインターネット情報の閲覧用端末、国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス及び商用データベース等を利用する専用端末の利用は、延べ 15,672 人（前年度比 84%）であった。それぞれの詳細は次のとおり。

㊦ インターネット情報 当館 2 階で提供している 2019 年度のインターネット情報の閲覧用端末の利用は、14,226 人（前年度比 85.3%）であった。

㊧ 国立国会図書館が図書館向けに提供するサービス

国立国会図書館デジタルコレクション 国立国会図書館のデジタル化資料のうち、インターネットで一般公開されておらず、絶版等の理由で入手困難な資料、約 150 万点が 2 階の専用端末で閲覧・複写できる（2015 年 5 月サービス開始）。2019 年度の利用は延べ 333 人（前年度比 75.2%）であった。

歴史的音源（れきおん） 歴史的音源は 1900～1950 年頃の SP 盤等のデジタル化音源で、インターネット公開している音源約 4,900 点と、参加図書館に限定して提供される資料約 43,000 点を 2 階の専用端末で聴取できる（2011 年 5 月サービス開始）。2019 年度の利用は延べ 247 タイトル（前年度比 199.1%）であった。

㊨ 商用データベース等 当館の 2 階及び 4 階の専用端末で提供している商用データベース等の 2019 年度の利用は 1,082 人（前年度比 96.8%）であった。また、『名古屋タイムズ』及び『日刊工業新聞』電子版の利用は 31 人（前年度比 81.6%）であった。

⑦ 企画展示の実施

利用者と資料をつなぎ、当館の利用を促進するとともに、図書館と資料を知ってもらうため、資料展示や関連講演会等の企画展示を実施している。

2019 年度には、1 階エントランス Yotteko（ヨッテコ）等を活用し、資料の展示や関連講演会等を 60 回（関連講演会等のイベント参加者 443 人）実施するとともに、連続講座・シリーズ企画として、県美術館と連携した「愛知県美術館学芸員による連続講座」を 4 回（参加者 134 人）、医療関係者による「健康講座」を 3 回（参加者 94 人）、学術や技芸の第一線を一般向けに解説する「リベラルアーツカフェ」を 4 回（参加者 153



インターネット情報閲覧席



リベラルアーツカフェ「Yotteko(ヨッテコ)ができるまで」(6/28)

人) 実施した。その他、利用者参加型の企画である「としょかんの『おしごと』をやってみよう！」や「手に取る書庫内図書ツアー」などを計 13 回 (参加者 248 人) 実施した。また、所蔵の映画資料を上映する名画鑑賞会を 31 回 (参加者 1,777 人) 実施した。

2019 年度は、既出の「おはなし会」などの児童図書室行事や A V 室などでの資料展示などと合わせて、企画展示事業を 185 回 (講演会等のイベント参加者 4,012 人) 実施した (詳細「IX 資料 2 企画展示一覧」参照)。

4 インターネットを利用したサービスの状況

① ホームページのアクセス状況

当館ホームページのトップページへのアクセス数は 892,943 回 (前年度比 80.5%) と減少した。しかし、愛知県図書館の蔵書検索ページのアクセス数は 1,701,226 回 (前年度比 95.8%) であり、トップページのアクセス数に比して高い数値を示していることから、トップページを経ずに直接蔵書検索を行う利用者が相当数いると考えられる。

② 横断検索「愛蔵くん」の利用状況

横断検索「愛蔵くん」には、県図書館、県内市町村立図書館 (48 館)、公民館図書室 (2 館) 及び専門図書館 (3 館) が参加しており、横断検索のアクセス数は 515,249 回 (P C からのアクセスのみ。スマートフォン等携帯端末を除く。) (前年度比 91.8%) と減少した。携帯サイトの総ページビューは 29,468 ページ (前年度比 91.2%) に減少した。

③ ホームページでのデジタル化資料の提供



画像コレクション

当館が所蔵する貴重な地域資料の効率的な利用のため、デジタル化を 2003 年から順次推進している。2019 年度末現在、「絵図の世界」(758 点)、「絵はがきコレクション」(108 セット)、「貴重和本デジタルライブラリー」(202 タイトル) の 3 コレクションに加え、新たに「画像コレクション」(12 点) をホームページに公開した。

「貴重和本デジタルライブラリー」は、引き続き書誌データの整備を進めており、2019 年度は 14 タイトル分の整備が完了した。今後も順次タイトルの増加を図っていく。

④ ナクソス・ミュージック・ライブラリー

音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」(2014 年 4 月から開始。クラシックを中心として約 200 万曲以上、同時 20 アクセス) の 2019 年度の利用件数は、総計 20,503 件 (前年度比 92.3%) であった。

5 遠隔地返却制度

愛知県図書館で借りた資料を地元の図書館で返却できる遠隔地返却制度 (2012 年度開始) の対象自治体は、東三河地区 (豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村)、西三河地区 (岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、高浜市、幸田町)、知多地区 (半田市、常滑市、阿久比町、南知多町、美浜町、武豊町) の 21 市町村で、2019 年度の利用は 2,846 冊・点 (前年度比 91.6%) であった。

6 館内職員研修の実施

2017 年度から、県政の一端を担う県図書館職員養成を目標に、当館職員の他、県職員を講師に館内職員の研修を実施した。毎月第 2 木曜日の休館日に開催している。内容によっては市町村立図書館職員にも参加を呼びかけており、県内図書館職員の自己研鑽の機会も提供している。2019 年度の実施状

況は次のとおり。

内容	実施日	参加者（うち市町村立図書館職員）
図書館と著作権法	5月9日	73人（22人）
資料保存	5月9日/6月13日	4人
コンプライアンス	6月13日	60人
多文化共生社会づくりの推進について	9月12日	47人（2人）
都道府県立図書館サミット2019参加報告	10月10日	50人
防災訓練	11月14日	70人
新聞データベースの活用	12月12日	52人（11人）
新図書館システム操作	12月25日	68人
衛生管理医による講演	1月9日	61人
東海北陸地区公共図書館研究集会、図書館地区別研修（東海・北陸地区）及び全国図書館大会三重大会参加報告	2月13日	57人
電子書籍閲覧サービス利用ガイダンス	3月12日	62人

計11回 参加者604人（35人）

7 図書館ボランティア、職場体験・インターンシップ、図書館実習及び見学の受入れ

① 図書館ボランティア

ア 図書館サポーター

2019年度の「おはなし会サポーター」の登録は27名で、毎月第1日曜日、第3土曜日、第2・4水曜日に子ども向けの絵本の読みきかせや紙芝居、わらべうた、ストーリーテリングなどの実演を行った。また、大人を対象にした「大人のためのお話会」を10月に開催し、朗読やストーリーテリングの実演を行った。この他、11月に東区の愛知芸術文化センターを中心会場とした「久屋ぐるっとアート」でも、「わくわく絵本はアート！by 県図書」として絵本の読み聞かせ等を行った。また、12月の「紙芝居の広場」では、職員や「紙芝居文化の会あいち」と共同で延べ40点の紙芝居の実演を行った。



わくわく絵本はアート！by 県図書(11/4)

破損・汚損した図書の補修を行う「資料補修サポーター」には、2名の登録があり、補修作業を行った。

イ 朗読協力員

2019年度の「朗読協力員」の登録は41名で、対面朗読（予約制）や利用者のリクエスト等に応じるための録音図書の作成など、ほぼ毎日活動を行った。

② 職場体験・インターンシップ、図書館実習及び見学の受入れ

中高生等の職場体験・インターンシップ12件25人、図書館司書養成課程の大学生の図書館実習の受入れ2件3人及び図書館関係者、学生、一般利用者等の見学21件329人、合計35件357人を受け入れた。

8 施設・設備の整備及び更新

開館後約30年が過ぎ、施設・設備の老朽化が進んでいること、また、快適な図書館の利用環境を整備する観点から、2019年度には、乳幼児授乳等専用室設置事業（10/1から供用開始）、危険箇所（外壁落下）対策工事（7/18～3/13）、泡消火設備泡タンク取替工事（9/25～1/21）、1階トイレ洋式化・温水洗浄便座設置工事（11/1～1/31）、非常用自家発電設備排気消音器修繕工事（11/8～3/20）及び大

会議室LED化に伴う照明工事（1/17～3/20）を実施した。

9 刊行物、広報

① 刊行物

各事業でパンフレット等を刊行する他、当館の広報誌として、事業報告書である『事業年報』（1992～）と、当館のサービスや所蔵資料の活用法などを紹介する館報『あゆち』（1991～、創刊当初から2005年までの誌名は『年魚市』）を毎年度刊行している。2019年度には、11月に『事業年報』令和元年度を500部、3月に『あゆち』第20号（特集：日本を『結ぶ』交通）を7,000部刊行した。それぞれ冊子版を県内外の公共図書館や関係機関等に配布し、電子版をホームページに掲示する他、『あゆち』については館内で来館者にも配布している。

② 広報

ポスターやチラシを使い企画展示の情報等当館の活動について広報する他、マスメディアへも情報提供を積極的に行っている。2019年度は、ブロック紙及び全国紙5紙（中日、朝日、毎日、読売、日経の各紙）に11回、その他地方紙やタウン誌に14回、ラジオに4回、合計29回当館の活動等が紹介された。（詳細「IX 資料 3 広報の結果」参照）

また、当館のホームページ（<https://www.aichi-pref-library.jp/>）では、利用案内、企画展示の情報、館内の案内を始め様々な情報を掲載し、随時更新している。2011年3月から開館20周年にあわせTwitterを開始し、2017年度からはFacebook、メールマガジンの配信を加えた。（2020年5月からはYouTubeでの動画配信も開始）

10 市町村立図書館等への支援・サービスの状況

① 協力貸出の実施

2019年度の当館から県内・県外の図書館等への協力貸出数は、全体で16,459冊・点（前年度比84.7%）であった。なお、市町村立図書館からの要望をうけ、雑誌の協力貸出を2017年4月1日からの試行期間を経て、同年10月1日から本実施に移行した。発行から1年以上経過した雑誌のバックナンバーを借受け館での館内閲覧に限り2週間貸出するものである。2019年度中の雑誌の協力貸出冊数は81冊であった。

② 相互貸借の支援

2019年度の当館を経由した東海・北陸地区（岐阜県、三重県、富山県、石川県、福井県及び本県）内の相互貸借冊数は、全体で45,182冊（同96.5%）であった。このうち県内図書館同士の相互貸借は42,429冊（東海・北陸地区全体の93.9%）であった。

③ 貸出文庫の実施

図書館未設置町村に図書や紙芝居を貸与する貸出文庫を実施している。図書500冊を上限に1年間貸与する基本図書と、図書80冊、紙芝居7組を3か月間貸与する流通図書の2種類を組み合わせ運用しており、2019年度は図書館未設置6町村のうち4町村（南知多町、設楽町、東栄町、豊根村）6施設に計2,185冊・組を貸与した。

④ 県立学校（図書館）の支援

学校での読書活動及び学習活動支援のため貸出サービスを実施している。2017年度からは、県立学校に対して地元の市町村立図書館を経由する方式での貸出サービスを開始した。サービス対象校については順次拡大し、2019年度末には12校となった。2019年度中は、このうち6校に対し609冊を、この方式で貸出した。

⑤ あいちラストワン・プロジェクト

県内で1図書館のみが所蔵する希少資料（ラストワン）を将来にわたって確実に保存し、利用できるよう県内市町村立図書館と協同して取り組んでいるプロジェクトで、2013年1月から試行し、

2014年10月から実施している。県内の図書館を設置する48市町村全てが参加しており、2019年度は、市町村立図書館において保存が困難とされた1,248冊の希少図書を県図書館へ搬入し、順次整理している。

⑥ 図書館職員・関係者向け研修の実施

県立図書館として、図書館員の資質向上を目的に、当館が単独で、また当館に事務局を置く愛知県公立図書館長協議会及び愛知図書館協会等と連携・協力して、県内の図書館職員・関係者向けに研修を実施している。2019年度に実施した研修については次のとおり。

ア 図書館協力担当者新任研修会

協力貸出業務を新たに担当する職員を対象とした研修で、2019年度は6月6日（木）に開催した。出席者64人。

イ 愛知県公立図書館長協議会の研修

同協議会が実施する研修は、公立図書館員としての知識や技術の習得を目的に、公開講座方式の研修にワークショップなど参加型を組み込んだものを主としている。

内容（講師）	実施日	参加者
第1回： [講演]まちの魅力をプロデュース～田原市図書館の9年間（豊田高広氏）	6月12日（水）	47人
第2回： [講演]学校図書館活用で育む「情報活用能力」と「読書力」（堀川照代氏）／[事例発表]安城市図書館における学校図書館サービス（市川祐子氏）、学校における学校司書の役割について（小牧市 Ver.）（花里千賀子氏）※ ※愛知図書館協会（児童サービス研修）と共催の研修	6月27日（木）	110人
第3回： [講演]超高齢社会におけるこれからの図書館サービス（呑海沙織氏）／[事例発表]名古屋市図書館の音読教室事業（高木聖史氏）、「元気はいたつ便」～はじまりはアイデアコンペから（杉浦未央氏、井出あゆみ氏）	12月17日（火）	48人
第4回： [講演]電子書籍市場の動向と図書館における提供の諸課題（家禰淳一氏）／[事例発表]電子図書館活用の工夫と反響（尾崎浩司氏、鷹羽恭子氏）、電子書籍を活用した多文化サービス（長谷川欣司氏）※ ※日本図書館協会地方講習会を兼ねた研修	2月4日（火）	91人
YAサービス連絡会による研修： [講演]スマートフォンとSNSの普及による情報行動の変容（高谷邦彦氏）※ ※愛知県公立図書館長協議会に設置されたヤングアダルト（YA）サービス連絡会による研修	10月4日（金）	53人

計5回 参加者349人

ウ 愛知図書館協会の研修

同協会が実施する研修は、実務への応用を主眼に、講義と演習を組み合わせた連続講座形式のものを主としている。2019年度は次の研修を企画・実施したが、統計研修については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

内容	実施日	参加者
児童サービス研修： 児童サービスに必要な知識と技術に関する講義と演習を、定員 20 人の連続講座 4 回 ^{※1} とステップアップ研修 1 回 ^{※2} で構成し実施 ※1：うち 1 回は 6/27 実施の愛知県公立図書館長協議会との共催による拡大講座 ※2：12/11 実施	6月27日(木) 7月12日(金) 9月11日(水) 10月24日(木) 12月11日(水)	連続講座 20 人 拡大講座 110 人 ステップアップ研修 10 人
レファレンスサービス研修： レファレンスのインタビュー技法、参考資料の評価等の講義と演習による 3 回の連続講座	10月3日(木) 11月1日(金) 11月27日(水)	24 人
選書研修： 図書館での選書に関して講義、事例発表及びグループワークにより学ぶ研修	12月6日(金)	97 人
資料保存研修： 資料保存に関する基礎知識と技術の習得を目的とした実習と講義による研修	1月29日(水) 1月30日(木)	40 人
統計研修： 愛知淑徳大学の協力による、図書館での統計業務に関して講義と実習を組み合わせた 2 日間の研修	3月5日(木) 3月6日(金)	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため 2 日とも中止

計 11 回 参加者 301 人

⑦ 会議の開催、講師の派遣及び図書館訪問

ア 図書館協力担当者会議及び貸出文庫担当者会議の開催

県内市町村立図書館及び公民館図書室等の担当者による連絡、調整及び意見交換のための会議を実施している。2019年度は2月26日(水)に県図書館、27日(木)に豊橋市中央図書館で開催し、2回合計で58人が出席した。

イ 講師の派遣及び図書館訪問

2019年度は、県内外で実施された図書館や関係団体が主催する研修会等へ、講師や委員として当館から計11件、職員14人(前年度、18件、22人)を派遣した。また、情報交換や意見聴取のために延べ30人(前年度80人)の当館職員が市町村立図書館を訪問した。

VI 県内公共図書館の動向と関係機関・関係団体

1 県内公共図書館の動向

図書館の設置 2020年4月1日現在の県内の図書館設置市町村は、48(38市9町1村)、未設置町村は6(豊山町、大治町、南知多町、設楽町、東栄町、豊根村)で図書館設置率は88.9%(48/54市町村)である。

図書館の運営 県内で図書館業務に指定管理者制度を導入している公共図書館は全100館(分館含む)中26館(前年度25館)で、その内訳は図書館業務全般への導入が22館、施設管理のみ導入が4館(当館含む)である。また、図書館設置自治体(100館)のうち、1県1市(2館)が首長部局の所管する図書館で、5市(9館)では、地方自治法に基づく補助執行により、首長部局が図書館の運営を担当している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館 大口町立図書館が2月27日(木)午後1時に休館して以降徐々に増加し、4月18日(土)の幸田町立図書館の休館により県内48市町村

全ての公共図書館が、感染症拡大防止のため、臨時休館した。

2 関係機関

愛知県教育委員会 社会教育及び学校教育に関する事務事業を所管していることから、公共図書館・学校図書館に係る次の事業に当館が協力した。

① 新任図書館長研修

新任の公立図書館長を対象に文部科学省等が主催する研修で、当館は愛知県教育委員会により副会場に指定されており、主会場（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）からのインターネット配信により実施されている。2019年度は9月3日（火）～9月6日（金）の4日間、当館AVホールを会場に実施し、新任図書館長10名が受講した。

② 学校図書館関係職員研修会

主に県立学校図書館における図書館資料の利用に従事する事務職員、実習教員を対象に実施する研修会。10月11日（金）当館5階の大会議室で開催した。会場を提供する他、当館から講義の講師として職員1名を派遣した。参加者38人。

③ 高校生ビブリオバトル愛知県大会 2019

子供の読書活動の推進において課題とされる高校生の不読率改善のため、読書の魅力を互いに伝え合う活動を通して、自ら進んで読書に親しむ高校生を育み、子供の読書活動の推進を図ることを目的に開催。愛知県教育委員会と愛知県子供読書活動推進協議会の主催で、当館は活字文化推進会議とともに協力した。11月3日（日・祝）当館5階の大会議室、中会議室及びAVホールで開催した。参加24校（発表者25人）、観戦者109人。



高校生ビブリオバトル愛知県大会 2019

④ 子供読書活動推進大会

本県における子供の読書活動を推進するために、県内の子供読書活動に関わる団体、図書館、学校等の関係者、子供の読書活動に関心のある方に対する研修の機会を設け、地域や学校等での活動の核となる人材の育成及びネットワーク化を図るため開催される。2019年度は、「ボランティア活動の活性化」をテーマに11月7日（木）当館5階大会議室で開催した。参加者80名。会場を提供する他、特別プログラムとして当館職員が参加者を対象に「県図書館探検ツアー（県図書館見学）」を実施した。

3 関係団体

① 愛知県公立図書館長協議会

愛知県公立図書館長協議会は、1968年、県内公立図書館相互の連絡と図書館活動の推進を図ることを目的に設立された。2020年4月1日現在69館（図書館設置の県市町村及び名古屋市分館）が加入しており、図書館業務に関する研修会、調査等の事業を実施している。同協議会には、ヤングアダルト（Young Adult：YA）サービスに関する情報を広く収集し周知することを目的としたYAサービス連絡会と、公立図書館のネットワークに関する諸問題を検討することを目的とした図書館ネットワーク研究会が設置されている。

2019年度、YAサービス連絡会では、図書館職員向け研修会（10/4）を実施するとともに、YA向けブックガイド『ティーンのためのAichi Librarians Choice A・L・C（あるく）』第7号を作成、公開した。また、図書館ネットワーク研究会では、県内図書館が同一のテーマで展示やイベントを行う「@（アット）ライブラリー」事業を実施した。2019年度のテーマとして選定した「図書館でアート！」には21館、「空！宙！そら♪」には14館が参加した。

② 愛知図書館協会



愛知図書館協会の研修（選書研修 12/6）

愛知図書館協会は、1950年に図書館事業の進歩発展を図り、もって教育と文化の振興に寄与することを目的に設立された。日本図書館協会の団体会員でもある。主な事業は県内図書館職員・関係者向けの研修会の企画・実施である。機関誌として『愛知図書館協会会報』（1950.1～）を発行している。

会員には、施設会員、個人会員及び賛助会員の3種がある。2020年4月1日現在、施設会員93機関、個人会員73人及び賛助会員9団体が加入している。

2019年11月10日（日）には、同協会の活動と図書館の役割を図書館関係者以外の一般の方々に知ってもらうため、当館との共催で、一般向け講演会「とっておきの旅をするための図書館活用術」（講師：日本交通公社「旅の図書館」副館長・大隅一志氏）を実施した。参加者74人。

③ 東海北陸地区公共図書館協議会

東海北陸地区における公共図書館事業の振興及び相互の協力を図ることを目的としており、東海北陸地区6県の県立図書館と1政令指定都市（名古屋市）の図書館が加盟している。主な開催事業は、加盟館の館長が参加する会議と、東海北陸地区の公立図書館職員を対象とする公共図書館研究集会である。2019年度には、館長会議を8月29日（木）に石川県で、研究集会を10月10日（木）から11日（金）に富山県で開催した。

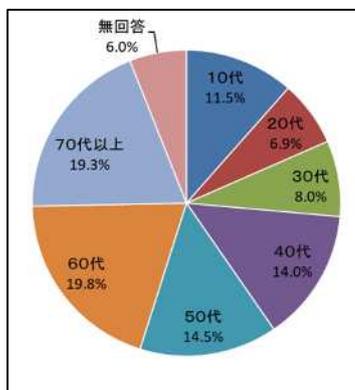
④ 東海地区図書館協議会

愛知、岐阜、三重、静岡県 of 公立図書館と同県に所在する大学図書館の館種を超えた連携・協力を進めるため、2004年11月1日に設立された。事務局を名古屋大学附属図書館に置いている。現在の参加館数は87館（公立63館、大学24館）で、当館は公立図書館の理事館4館の一つである。

VII 2019年度来館者アンケート

当館では、来館者の利用行動や評価、要望を知るため、2005年度から来館者を対象にアンケートを行っており、2019年度は2019年12月15日（日）と17日（火）に実施した。2日間で1,000枚のアンケート用紙を中学生以上の来館者に交付し、636枚回収した。結果については、ホームページ「県図書館の発行物」（<https://websv.aichi-pref-library.jp/publish.html>）に掲載している。来館者、来館頻度、来館目的及びサービスの重要度と満足度の概要は、次のとおりである。

1 来館者



来館者 年代別

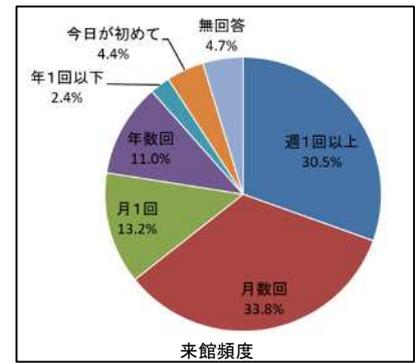
来館者の年代別では、60代の割合が最も高く19.8%である。次いで70代以上19.3%、50代14.5%、40代14.0%と続き、60代以上が来館者の約4割を占める。最も年代で少なかったのは20代で6.9%であった。

職業別では、「お勤めの方」の割合が最も高く39.3%、次いで「無職の方」の26.1%であった。学生（中学生・高校生・大学生）の割合は15.6%で、2018年度に比べ1.2ポイント増加した。

なお、「Q3 来館の目的を達成されましたか」という項目については、81.8%が「達成できた」と回答している。

2 来館頻度

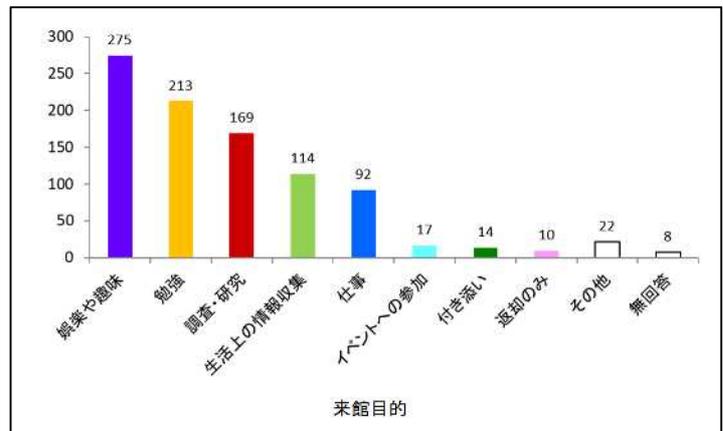
「月数回」の割合が33.8%で最も多く、次いで「週1回以上」が30.5%、「月1回」が13.2%と続く。月1回以上が77.5%を占めている。県図書館の利用頻度別に地元図書館の利用頻度を見ると、月1回以上県図書館を利用している人の4割以上が、月1回以上地元の図書館を利用している。県図書館と地元の図書館を使い分けている様子が見えてくる。



3 来館目的(複数回答可)

来館者全体で見ると「娯楽や趣味」が第1位で全体(1009件)の27.3%(275件)を占める。次いで「勉強」、「調査・研究」、「生活上の情報収集」と続く。

年代別で見た来館目的の特徴的な回答は、10代、20代、30代は「勉強」が最も高く、10代56.4%、20代60.7%、30代31.6%となっている。また、40代でも「勉強」は、第1位の「娯楽や趣味」に続いている。一方、50代以上は、第1位の「娯楽や趣味」に続いて、「調査・研究」が第2位となっている。「勉強」、「調査・研究」がいずれの年代でも上位に位置しており、県図書館が来館者の課題解決の場として機能していることがうかがえる。



4 サービスの重要度と満足度 *4段階評価(中心値は2.5)

重要度に比して満足度が低かったのは「館内の案内表示のわかりやすさ」で、重要度が3.41点に対して満足度は3.17点であった。案内表示の改善が求められていることがうかがえる。一方、重要度に比して満足度が高かったのは「レファレンスサービス」で、重要度3.12点に対して、満足度は3.36点であった。

